第５０号記念号

私たちは障害者が地域の人々とともにいきいきと生活していける「村づくり」をすすめています

はばたけ NO 50

２０００年２月１５日発行

栃木障害者の自立をめざす会　《 会員数　現在 ２６０名 》
事務局：〒328-0123　栃木市川原田町402-2　中山 全央　TEL 0282（２３）３２３６

自立の会・新年会（１月３０日　大宮地区公民館）

特集：「はばたけ」５０号によせて

新成人へ・家族のメッセージ

福祉ショップの新たなスタート

建設委員の「お仕事」

医療法人 冨樹会 三田整形外科理事・事務長　松本　和哉

栃木中央動物病院は私の好きなお店のひとつです。

その昔、中山さんが大町に薄汚い動物病院を開院したとき、私はこのままでは３年で潰れるなと思いました。

理由の一つはずさんな経営です、レジはおろか金庫もなく、辛うじて帳簿はあったようですが、売上金を机の引出しや白衣のポケットに入れたままであったり、受付台の上にそのまま置き忘れたり、それはひどいものでした。

次に、見栄えをまったく気にしない無神経さです。私は同期のＫと、何度も中山先輩に病院を改装し院長のファッションをもう少し考えて、イメージアップをしようと進言したのですが、聞き入れてくれませんでした。

そして最大の理由は中山先生の性格です。もし初対面で彼を気に入る人がいたとしたらよほどの大物か天の邪鬼に決まっています。新規開院でしたから、患者さんはみんな初めてです。それがもう一度来院するとしたら治療費が安いか、栃木では他に動物病院がないこと以外考えられません。

そんな理由で３年と踏んだ私でしたが意外に持ち堪え、移転新築までしてしまったのですから、栃木には天の邪鬼が多いのに違いありません。

前振りが長くなりましたが、そんな先輩が開業しているお店に大威張りで出入りできることや、私の知らない世界がここにはあること、我家には居ない口の達者な可愛い娘が居ること、そして私のような者でも頼りにしてくれることもあり足が向くようです。

さて、その動物病院院長はなぜか求心力があり、色々な組織から祭り上げられるのです。その昔、我々の高校生物部ＯＢ会は初代顧問を中心に中山さんが作り上げました。２０年ほど活動したのち、中山さんが「俺は忙しい」と下の者に会長職を押し付けてから自然消滅してしまったのです。今思えば、その時の「忙しい」理由がこの自立の会の活動だったようです。

この度、門外漢の私に建設委員の声が掛かったのも何かの縁、福祉には素人の私ですが少しづつ勉強し、微力を尽くしたいと思います。

現時点での、私の役目は第一印象の良くない中山さんと外界とのクッション材になることと考えて、まずこの施設建設が無事成功するよう「お仕事」をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

現在、建設委員会では１２月中に施設建設のハードの面で今後の中核になる設計事務所の選考を終了し、その方に我々のパートナーとしてお付き合いをお願いする予定です。しかし、ソフトの面では今後の各種手続き、申請、折衝などに専任できる人物の選定などが必要と思われています。

限られた予算の中でやりくりしなければなりませんので、何か良いご提案がありましたらご連絡下さい。

特　集：「はばたけ」50号によせて

「はばたけ」の発行５０号万歳！

会 長　中山 全央

本当にあめでとうございます。今日まで「はばたけ」発行に携わった、谷田家・鈴木昭夫・本間英樹さんにはこの紙面をお借りしまして、感謝申し上げます。

今思えば、第１号はたった一枚のガリ版スリのわら半紙でした。その内容は総会の案内と村づくりのことで、“はばたけ”の字は副会長の新沢修さんが書きました。この「はばたけ」という機関誌の名前を決めるのも論議となりずいぶん時間を費やしました。私たちは発足当初から何でも話し合い、時間のかかることをしてきたのでした。

こうした中で、私たちは、将来の不安と同時に、夢を語りあい、障害児を持った悲しみも少し消え、就学後のことを真剣に考える時間を与えられました。互いに壁を切ったように思いを語り、子どもの将来を形作る活動に自らが参加し、この活動の宣伝紙として「はばたけ」の発行が始まったわけです。現在、二百数十部を発行し、会員に郵送していますが、一つの事業となりつつあります。心をつなぐ「はばたけ」は会員の要求をまだ満足できてはいませんが、今日の自立の会の活動を知らせる、最も重要なものとなっていると思います。

今回の５０号は、記念号として栃木市長さんをはじめ多くの方々が思いを込めて書いていただき、本当にありがとうございました。これからの障害者問題を多くの方々とこの紙面を通して論議できる先駆けとなればと思っています。

最後になりますが、私たちの掲げている村づくり構想が、障害を持つ仲間、家族の皆様に生きがいがもてるものになりますよう、実現に向けてともに頑張ることを願って、記念号の挨拶と致します。

「はばたけ」５０号の発行を祝して

栃木市長　鈴木　乙一郎

栃木障害者の自立をめざす会の機関誌「はばたけ」５０号の発行、誠にあめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

栃木障害者の自立をめざす会の皆様には、日頃より本市の福祉行政に、一方ならぬご理解とご尽力を賜り心からお礼を申し上げます。貴会は、「車椅子ダンス」や「ふれあいの集い」「身障者スポーツ大会」等、各種事業を積極的に実施され、会の目的達成に向け、日々努力されておりますことに対しまして、改めて敬意を表する次第であります。

さて、皆様もご承知のとおり、核家族や人間関係の希薄化などが進展する中、福祉をとりまく環境は大変厳しい状況にあり、人と人との心の繋がりがますます重要になってきております。また、４月からは介護保険もスタートいたします。このような中、市におきましても、さまざまな施策を講じているところでありますが、そのためには多くの方々のご支援ご協力が不可欠であります。

今後とも会委員の皆様方のさらにきめ細かな、心のこもった福祉の実践とあか添えをいただきながら、「ゆーあいのまち栃木」福祉都市宣言にふさわしい街づくりに努力してまいりたいと考えております。

結びに、栃木障害者の自立をめざす会のますますのご発展と会員皆様方のご活躍とご健康をご祈念申し上げます。

ますます輝け「はばたけ」

共同作業所全国連絡会理事長　鈴木　清覚

「栃木障害者の自立をめざす会」の機関誌『はばたけ』が記念すべき第５０号の発行を迎えられたことに、心からお祝い申し上げます。あわせて、貴会の１９８７年発足以来の活動に敬意を表します。

めざす会の１３年におよぶ活動は、障害のある人たちをはじめすべての人たちが主人公であるということを基本に、権利としての社会福祉の実現をめざして粘り強い地道な活動を展開してきた歳月です。その存在と役割は、５０号にわたる『はばたけ』の発行とともに、福祉の公的責任が懸念されている昨今のもとでますます輝きを放っています。

また、運営の厳しい無認可である「福祉ショップゆうの家」に始まり、「共同作

業所ゆうの家」における実践と運営、そして現在、この経験を土台に社会福祉法人設立と知的障害者授産施設やデイサービスセンターの建設に向かってカを合わせて努力をされていると伺っています。

中山会長が本年１月号で述べられた「光と風を頬と体で感じる」ことができる施設の一日も早い実現と、障害のある人たちがいきいきと生活できる地域の実現に向けて、『はばたけ』がますます紙面を豊かにして支援の輪を大きく広げる役割を担っていただくことを大いに期待しています。

「継続は力なり」情熱と行動で社会的バリアフリーの実現を！

栃木市議会議員　手塚 弥太郎

「はばたけ」５０号記念おめでとうございます。「自立をめざす会」発足当初から関わりを持って参りましたが、申し訳ないが「政治に携わる者として社会的ハンディを持った方々のために何らかのお役に立てたら」という程度の第三者的自覚の会費会員でしかありませんでした。

その後、私の家にも「はばたけ」が届けられるようになり、継続の威力が発揮され活動内容がわかるようになって参りました。特に会員や保護者の方々の真剣さと粘り強い活動に心打たれるようになり、色々なイベントに参加協力をするようになって参りました。

「真剣さが相手の心を打つ」と言えば福祉作業所建設記念資金チャリティー絵画展の時のことです。厳しい状況の中での企画ですから私も開場設営や宣伝カーの貸与の協力はしようかと考えてありましたが、財政的事情で絵画を買う予定は皆無でした。ところが役員諸氏やボランティアの方々の「あと少しで目標達成！」の真剣さに打たれ、私には似合わぬ高額な絵画をいつの間にか手にしていたのでした。その情熱が目標額を超過達成したことは言うまでもありません。

本会の皆様方が更に地道な継続と情熱で行政を動かして、すべての障害者（児）の社会的バリアフリーが達成されますようご祈念申し上げます。

介護保険に思う

栃木市議会議員　早乙女 利夫

妻が知的障害者の施設に勤めていたことと、私自身が農業をやっていたことで、「農作業のお手伝いでも」という軽い気持ちで、自立の会の運動に設立当所から関わってきました。施設建設が具体的日程にのぼってきたのですから、運動も大きく発展してきたと思います。

９年ほど前に議員となり、議会からという視点でも障害者運動を見てきました。

皆さんもご承知のように、介護保険がこの４月からスタートします。介護保険はドイツの介護保険をみならって作ったものといわれています。ドイツの介護保険では高齢者のみならず障害者も対象にしていますが、日本は６５歳以上の高齢者のみとなっています。高齢者については、「高齢者保健福祉計画」いわゆるゴールドプラン、栃木市では「ゆーあい長寿プラン」というのができていますが、障害者プランについてはまだの状態です。

４年前に厚生省が提唱していたにもかかわらず、多くの自治体でできていないのが実態なのです。このことは障害者に対する行政のスタンスが如実に現れているということだと思います。

今年中には栃木市でも障害者プランが策定される予定ですが、このプランに市民の声が十分反映できるよう、力をつくさなければと思っているところです。

下都賀総合病院労働組合　副執行委員長　星　健二

「はばたけ」第５０号記念誌の発行おめでとうございます。組合員４２１名を代表して心よりお祝い申し上げます。

当労組においても機関誌活動の位置付けは高く、またその発行に携わる人の中から、三役等の幹部が育成されてきたことも事実です。機関誌活動が活発であったか否かが、組合活動そのものを反映しているといっても過言ではないと思います。多方面にわたるご活躍をされながら「はばたけ」の発行を継続されてきた自立の会の活動には、あらためて敬意を表します。

機関誌活動はもとより、自立の会の運動がさらなる深みと広がりを持ち発展されますことを願って、お祝いのメッセージとさせていただきます。

次回は“施設建設記念号”の原稿依頼がいただけることを楽しみにしています。

獨協医科大学名誉教授　梅原　忠雄

高齢化の進展に伴って高齢者がひとたび生活活動に困難を感じたとき、社会全体で介護しようという考えから、介護保険制度がこの４月から愈々発足することになりました。

行政はこの制度の万全を期すべく、ここ数年準備に追われ、一部の福祉行政には停滞があるかに見受けられます。特に身体障害者の支援プランの実施などには相当のマイナスの力が働いているかに見えます。

先日、栃木市の福祉課の課長をはじめ職員の方々から障害者の支援計画の一端を伺う機会がありました。自己資金による障害者施設の建設には反対するものではないが、公的資金援助は難しいとのことでした。しかし、栃木障害者の自立をめざす会の障害を持つ人達は、市内に住んで社会人として有意義な人生を送ろうとしている人達です。

それゆえ、私的施設といえども市からの応分の支援を希望しています。一日も早く新しい施設の出来上がることを切に願っている一人です。

新しいブドウ酒は…

ゆーあい工房 施設長　渡邉 全一

これまでの福祉施設作りは、ある個人の熱意から始まることが多かったようです。その人が構想を練り資金を負担し、理事長としての責任を負うという形です。

自立をめざす会の取り組みはそうではありません。障害をもつ子の親と、その協力者による大勢の人たちの総意に基づいてスタートしました。まずは「共同作業所ゆうの家」が作られ、仲間たちの生活と権利をどう保障していくか、が実験されました。次は、通所授産施設の建設であり、その先の大きな夢も論議されているようで、楽しみにしております。

活発な議論や開かれた組織の有り様は、今後の法人設立や施設経営にも生かしたいものです。経理や経営状況を公告・公開することや、開かれた公正な職員採用試験、きちんと議論ができる理事会運営などは、公共性の高い福祉事業には不可欠なことです。それは、措置制度から選択・契約方式へと変わる今、最もふさわしい在り方だと思えるのです。

市のダイナミックな対応を期待

元栃木養護学校 学校長　猿山　晟

障害者プランを策定中の本市にも、３０００名以上の障害者があられるが、さまざまな理由で施設には入れないので、入所への希望や需要は大きい。その要望に応えるべく本会は、「障害者の村づくり」を目標に施設建設運動を展開し、１４年が経過した。その間、一つ一つの悪条件を克服し、地域社会と共に歩む施設づくりに奔走している中山会長さんはじめ会の皆様のご努力には頭の下がる思いである。

私も、これまでいくつかの障害者プランを拝見したが、実態がそれほど好転したとは考えられないものが多い。市議会だより（９６号）では、他市からの訪問議員の感想の多くに、本市の福祉政策の充実が挙げられているが、高齢者福祉のみならず、障害者福祉にも、ゆーあいのまち栃木宣言をしている本市にふさわしい行政面・財政面でのダイナミックなバックアップをお願いしたい。

足利養護学校 学校長　三浦　勝

娘が高等部を卒業し、ゆうの家にお世話になって４年がたとうとしています。

指導員の皆さんのご指導のもと、仲間と楽しく過ごせる場所が確保され、毎日喜んで元気で通っているその姿に、親として安心すると共に頼もしく感じています。

自立の会の運動に情熱を注いでいる先輩方には感謝しつつ、目先の生活に追われ、思うように活動に参加できないでいることを申し訳なく思っています。娘がお世話になった頃１０名程度だった仲間がこの４年間で倍になり、ゆうの家もずいぶん手狭になりました。子を思う親の情熱がいくつも集まることにより、スーパーパワーになることにも改めて驚かされています。

関係機関のさらなるご支援を願い、青写真の中に笑顔で働いている仲間たちの笑顔を想像しながら、目標の早期実現を目指し、皆さんと共に頑張っていきたいと思います。

谷田 美佐子

はばたけ５０号の発行を機に、１４年前の設立総会資料を開いてみました。発起人として１１家族１８名で立ち上がった自立の会でしたが、現在は会員が２５０名をこえ、「はばたけ」発送も、関係団体等を加えると３００件以上になり、その発送準備には相当の時間と労力を費やすまでになりました。

中山会長とは子どもが同じ年齢ということもあり、会が発足する前からおつき合いさせていただいています。はじめの頃は水と油のような関係でしたが、お互い子どもを思う気持ちは同じで、時には大声で論議をしながらもここまで一緒に頑張ってくることができました。

中山会長の強いリーダーシップ、島田副会長のこと一番の決断力。それぞれの役員が自分の果たすべき役割を遂行し、会員の方々一人ひとりが自主的・積極的にこの運動に参加して下さったことで、自立の会が大きく発展してきたものと確信しています。

会則の中に「障害者が安心して働き、学び、発達し、生活していけるためには何よりも障害者が地域に土着し地域の人々とともに生きる喜びを享受できる『障害者の村づくり』をすすめる」とあります。まだまだ私達の運動はその途中です。今すすめている法人施設建設もその一通加点と考えていますが、この施設建設を通してますます自立の会が発展していくことを願っています。

これからも自立の会・ゆうの家、それらを支えて下さる方々と一丸となって、はばたけも１００号、２００号をめざして発行し続けていきたいと思います。

応援よろしくお願いします。

浪花恋時雨

三澤 宏男

銭（ぜに）のためなら
　女房（お客）も泣かす
それがどうした文句があるか
銭や銭や、銭もってこい
なあ、おはま、わいは日本一の銀行マンに
　なったるんや

都はるみと岡千秋の「浪花恋時雨」をこんな替え歌にしてカラオケで絶叫していたのは、銀行員時代の私です。肝臓を売れだの、目玉を売れだのと言わなかったのは幸いでした。でも、私の愛読書はナニワ金融道でしたヨ。

単身赴任せざるを得ない転勤辞令を受けたのを機に昨年銀行を辞めました。

それから、自立の会の仲間にであって、この世間には銭（ぜに）や出世や名誉欲などとはあまり関係なく行動している、不思議な人々が大勢いることを知り、大変びっくりしました。

いま、私は自立の会の仲間からたくさんのものを受け取っています。それは言葉では言い表せないものです。

本当にありがとう。

養護学校教諭　尾崎　由美子

「はばたけ」発行５０号、誠にあめでとうございます。

私が中山さん、谷田さんにお会いしたのは、約１３年前、養護学校に入学した未央さん、雅江さんの担任になったときでした。

もう既に自立の会の活動を始められていたようですが、勉強不足だった私にはなかなか将来図を思い描くことができず、がっかりされたことと思います。それから１３年、本当にいろいろなアイデアと実行力には頭が下がりっぱなしです。

さて、養護学校を卒業された大部分の方が通所の作業所で働くようになってきました。そんな時代にあって、作業所の役割は大変重要になってきていると思います。今後も「ゆうの家」には、働く皆さんが楽しく、生きがいのある生活を送れるようになってほしいと願います。それは私にとっても同様で、「ゆうの家」と聞いただけで皆さんの顔が浮かび、ほっとする場所なんです。

今後も、このご縁を大切に、共に生きて行ければと思っています。

関谷　資子

三月で十二年間の学校生活が終わりになります。若草・野沢・栃木養護とそれぞれの学校に通えたことは、初めは不安がありましたが、娘は一度も「行きたくない」と言ったことがなく、学校へ行くことが楽しみだったようです。友達もたくさんできました。毎日の送り迎えも、正直言って、時には親のほうが「休みたいなあ」と思った日もありましたが、多くの人と知り合えたことは、娘も親も貴重な経験となりました。

卒業後は「ゆうの家ショップ」に通います。作業所の仲間とも徐々に打ち解けられて、仲良くやっていけたらなあと思っています。お客様が気軽に立ち寄れ、お買い得なものがたくさんあって、感じのいい「ゆうの家ショップ」になるよう、工夫してやっていきたいです。親子共々よろしくお願いします。

小島　幸子

「手をつなぐ」（育成会機関誌）の２月号に気になる記事がのっていた。２２才の自閉症の子供をもつ母親からの質問で、仲間の親たちと施設づくりに取り組み、自分の子供も入所できたが、子供の問題行動が多く、退園をせまられているという。

皆さんご存知のように、自閉症児・者は言葉の理解が乏しく、しばしば異常行動が激しいため、療育指導の困難さを伴っている。我が子もその通り、ニコニコしていたと思うと理由もなく（本人には理由がある）爆発することがあり悩まされている。

ゆうの家においては一人ひとりを大切にした指導を展開していますが、我が子のように大変な仲間が入所しても、適切な取り組みをしていただけるようお願いしたい。

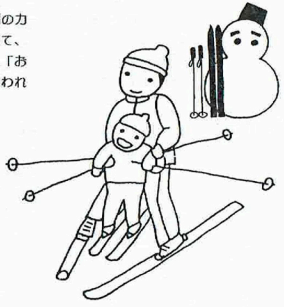
暗い話になったが、これからも肩の力を抜いて、１００のうち５０は子育て、残り５０を自立の会の活動にあてて、「お楽しみ会には欠かせない人ね」と言われるようにがんばりたいと思う。

山中　よしえ

自立の会ができて何年になるのかな。みんなに運動をどうやって伝え・広げていくか、楽しく続けられるか、そう思いながら、もう十数年がたちました。

ゆうの家の仲間たちもずいぶん増えました。みんなかわいくていい子たちばかりで、仲間の輪があったかい。そんな仲間たちを見ていると、自立の会の運動も上へ上へ目を向けてもっとがんばっていかなくてはと思います。そのためにも、みなさんの力がもっともっと欲しいのです。

それぞれが力を出し合って、一つ一つ乗りこえて、いずれは入所施設建設までみんなの力で積み上げられたらどんなに幸いか。それまで、がんばってやっていきたいです。



伊藤　睦

仲間たちの笑顔～文化的な面や労働面での仲間の笑顔一つひとつから、自分たちが精一杯社会の一員として生きているのだという意欲が伝わってきます。

私自身、ゆうの家の職員になる前は老人福祉の分野が主に労働の場でした。「福祉＝老人」ということに中心をおいていましたが、そればかりではないということを、今の職場で気づかされました。

障害というハンディを持っていても、一人の人間として生きたいという気持ちは誰にでもあり、親から自立して自分の道を歩みたいという気持ちもあり、その実現に向けてみんな頑張っています。

一人ひとりの力では出来ることは限られてしまいますが、大勢の人が協力し、行動すれば、ものすごい力になります。栃木障害者の自立をめざす会のねばり強さが、今日の成果に至り、あともう一歩の所まできているのだと思います。

ゆうの家の新しい生活の場・授産施設が一日も早く実現することを願っています。

本間　英樹

自分が若い頃には実感としてわかり得なかったことがあります。それは、なんでこんなに子育ては大変なのか？！　そして、子どもがこれほどまでかけがえのない存在だったとは！…ということ。

しかし、愛しい我が子に、障害や病気があったとしたら…。

ジャーナリストの本多勝一は、脳性マヒ（CP）の妹を育てた自分の母親について、畏敬の念と愛情を込めてこう語っています。「こうした CP の子供を長いあいだ育てる親の苦労は、健康児を育てる場合の、おそらく『何十倍』ではなく、『何百倍』くらいだろうと思われます。」

障害児を育てるには大変な勇気と、そして“哲学”が必要です。それは「生きること」の意味を問うことであり、そして、誰もが人間らしく生きられる社会をつくっていくことです。

ゆうの家の職員になって６年たちますが、仲間と保護者、自立の会の方々から学ぶことばかりです。

1月のスナップ

妙唱寺・大黒天

自立の会がいつもお世話になっている、妙唱寺の大黒天が1月15・16日に開かれました。今年も手打ちそば・うどんを作って参加しました。

自立の会・新年会

自立の会の新年会が1月30日、大宮地区公民館で開かれました。
前半は施設建設についての話し合いがあり、その後、おいしい食事をとりながら、カラオケで盛り上がりました。

はばたく仲間たち ③

薄田 和輝 さん（19才）

こんにちは。薄田和輝といいます。
宇都宮大学附属養護学校を去年卒業したばかりで、ゆうの家で一番若いです。
壬生の安塚から毎日電車で通所しています。
ゆうの家では竹細工の仕事をがんばっています。今は自治会の副会長もやっています。ゆうの家でみんなといろんな事に取り組んでがんばっていきたいと思います。よろしくお願いします。

新会員紹介 ③

岩田 広美 さん（マロニエ医療福祉専門学校）

皆さんこんにちは。

私はマロニエ医療福祉専門学校の社会福祉科1年の岩田広美と申します。

私と「ゆうの家」の皆さんとの出会いは、去年の夏休みに大宮公民館でボランティアをさせていただいたときです。

今までのボランティアというと高齢者の方と接することが多かったので、かなり緊張しながらボランティアの3日間を過ごしたのを覚えています。

そんな私の気持ちを知ってか知らずか、ゆうの家の皆さんは人なつっこいステキな笑顔を見せてくれました。

「花」という歌を手話で皆さんとステージで歌った事をきっかけに、手話の勉強を始めました。皆さんとの出会いで私に中の福祉の世界が広がり、新たな扉が開かれたようです。

私は高齢者も障害者も健常者も関係なくすべての人が健康で幸せで明るい福祉をめざしています。とても大きな夢ですが、これから沢山の人と出会い、経験を重ねてしっかり勉強して、少しでも夢を実現できるように頑張りたいと思います。

■ ゆうの家ニュース ■

記念すべき２０００年に成人を祝った仲間は、谷田雅江さんと中山未央さんです。ゆうの家では１月１３日に「成人を祝う集い」を催しました。けやき作業所の自治会役員さんも参加し、楽しいレクリエーションも交えてお祝いしました。みんなの心をこめたメッセージは、記念文集にしてお二人にプレゼント。
その記念文集より、家族からのメッセージを紹介しましょう。

谷田さんの家族から

雅江ちゃん、２０歳成人あめでとう！
とってもがんこだけど、誰とでも仲よく、まわりの人を明るくさせる雅江の性格が、ママは大すきです。
小学校に入学するまでは、病院での生活の方が長く、毎日注射をされたり、何回も手術をしたりで、とても辛かったですね。大粒の涙をいっぱい流した事を昨日の事のように思い出します。その都度パパとママから「泣かないで！　頑張れ！！」と言われて…。今のがんこさは、あの頃培われたのかもしれませんね。
そしてたくさんの人たちに見守られ、支えられ、今はとても元気になりました。小さい頃の病院通いが嘘のようです。
病院の先生や看護婦さん、学校の先生やお友達、ゆうの家の指導員や仲間たち、そして誰よりも一番心配してくれたおばあちゃんと今は亡きおじいちゃんに、いっぱい、いっぱい「ありがとう！」と感謝しましょうね。
これからも「ありがとう」の気持ちを忘れず、いつも笑顔の絶えない雅江でいてくださいね。
パパもママも応援しています！！

中山さんの家族から

未央さんへ
赤ちゃんのときは、一日おきくらいに病院に通っていましたが、今ではずいぶん回数も少なくなっていて、大したものだなあと感心しています。
生まれたばかりのときにお医者様は「三つまでは生きない。」と言っていましたが、あのときのお医者様に未央を見せてあげたい気がします。
異性に少し興味が出てきていますが、身近な異性はお兄ちゃんなので、お兄ちゃん大好きです。お正月にお兄ちゃんが帰ってきて、プレゼントをたくさんもらったときには、とてもうれしそうにしていました。未央が幸せそうにしているとこちらまでうれしくなってくるので、不思議な力があるのかなと思います。
未央はあきらめがよくて、こだわりが少ない分、親が忙しくてかまってやれないときなどは、少しかわいそうです。ごめんね。
もっと、ずうっと未央といっしょにいたいと思っています。

■ 自立の会・ゆうの家　２月の予定 ■

２日	（水）	福祉ショップ運営委員会
４日	（木）	第２回はばたけコンサート実行委員会
６日	（日）	車イスダンスサークル
９日	（水）	ゆうの家・職員会議
１０日	（木）	第１６回施設建設委員会
１１日	（祝）	施設建設に向けての学習会
１４日	（月）	ゆうの家・調理実習
１５日	（火）	建設委員会・地域自治会との懇談会
１６・１７日		ゆうの家・実践総括会議
１９日	（土）	自立の会役員会
２０日	（日）	車イスダンスサークル
２５日	（金）	雪山レクリエーション

◎ ご協力ありがとうございました。◎

栃木都ライオンズクラブ様・栃木都ライオネスクラブ様・妙 唱 寺 様
田上 百合子 様・牛久 隆治 様・安田 はつい 様・森戸 キク 様・白井 昌徳 様

□自立の会・冬の物品販売（カレンダー・つけもの等）　２８５，７７０円

■ 新しい福祉ショップにご協力を

～ 関谷真知子さんの介助ボランティアを探しています！！ ～

本文にも載っていますが、この３月に関谷真知子さん（１８）が栃木養護学校を卒業して、ゆうの家の仲間になります。
しかし、筋ジストロフィーという障害をもち、現在の作業所の環境で作業や生活をすることは困難なため、福祉ショップを利用しやすいように改築して、主にショップの仕事を担当してもらうことになりました。
そこで、下記の内容で、関谷さんと一緒にショップのお手伝いをしていただける方を至急探しています。関谷さんの日中活動の保障のために、どうぞご協力をお願いいたします。

●日　時：　月～金曜日　午前１０時から午後３時まで
　　※週１日、午前あるいは午後のみという時間帯でも結構です。
●内　容：　関谷さんの作業・生活面の援助（経験は問いません）
　　福祉ショップの店内業務等
●お問い合わせ：自立の会事務局 0282(23)3236、または ゆうの家 0282(24)8596　まで。